

受精胚へのゲノム編集と出生前診断に関する声明文

私たちは、受精胚へのゲノム編集及び、出生前診断に反対する市民団体です。

国は、ヒト受精胚を用いたゲノム編集研究を容認し、今年4月から研究を始めます。

ヒト受精胚へのゲノム編集とは、命の始まりへ人間が直接介入する、ということです。

一度ゲノム編集を行えば、二度ともとは戻せません。遺伝子操作の影響は、世代を超えて引き継がれます。このような行為は地球が育んできた多様な命への冒涇であり、とんでもなく傲慢な行為で、許されるはずがないと私たちは考えます。

国の指針は、当面、生殖補助医療の向上を目的とする基礎研究に限定し、胚は子宮に戻さないとしています。

しかし、早晩、遺伝病「治療」のためだとしてゲノム編集を施した受精胚を子宮に戻すことが求められ、さらには、望ましい資質や高い能力をもつ「人間改造」への道を開く可能性があります。特に、中国広東省の南方科技大学の賀建奎（フォージエンクイ）准教授らの研究チームが、ゲノム編集技術を受精胚に用い、双子の女児を誕生させた事実が、中国当局によって確認された現在、その危険性は、さらに現実のものとなってきています。

また、胚へのゲノム編集は、出生前診断を行い障害のある胚や胎児は廃棄（中絶）することが前提とされている点も大きな問題です。

昨年、日本産科婦人科学会は、新型出生前診断を臨床研究から一般診療へ切り替える方針を決定し、1年間の検討の後、実施施設拡大を決定しようとしています。

現在、出生前診断は、「高齢出産による胎児のリスク」といった医療やメディアの論調にあおられる形で、あるいは、多くの障害者や家族が当たり前前に地域で生活している事実も理解されないまま、一般社会に広がり続けています。その背景には、障害に対する根強い差別や偏見とともに、ゲノム関連産業や検査・医療業界を潤す多額のお金が動いているのも事実です。これにゲノム編集が加われば、国と研究者主導で、「良い胚」と「不要な胚」の振り分けが進められ、社会に、さらなる分断が持ちこまれるのではなかとを考えます。

いつも正常であることが求められ、健康であることを強いられることが、本当に人社会をこころ豊かにするのか、互いを認め合える社会となるのか、私たちは30年前より、国や学会に「人の命の萌芽である受精卵の研究は、市民を交えて議論を尽くすよう」要望し、検査の精度をあげるのではなく、誰もが安心して子どもを産み、育てることのできる社会の構築を要望してきましたが、研究先行の動きは止まらず、暴走とも見える勢いで進んでいます。

国連の障害者権利条約では、「ある社会がその構成員のいくらかの人々を締め出すような場合、それは弱く、もろい社会である」とし、障害の有無にかかわらず「共に学ぶインクルーシブ教育、共に生きるインクルーシブ社会」の構築を唱っています。そして、障害の定義をその人固有の欠損、欠陥であるとする「医学モデル」から社会との関係から生じるとする「社会モデル」に転換し、社会そのものが変わらなければならないとしています。

受精胚へのゲノム編集による「いのちの操作」や、出生前診断による「いのちの選別」は、これらの方向に逆行するものです。

私たちは、今回の受精胚へのゲノム編集容認と出生前診断拡大に、断固反対します。

《 声明文への賛同呼びかけ人 》

天笠啓祐 (DNA 問題研究会・ジャーナリスト)・岡田健司 (自立生活センター アークスペクトラム) 加古雄一 (神経筋疾患ネットワーク)・河田昌東 (分子生物学者)・佐々木和子 (京都ダウン症児を育てる親の会)・神野玲子 (DNA 問題研究会)・利光恵子 (優生手術に対する謝罪を求める会)・那須麻千子 (どこまでも九条の会・フリーライター)・西沢いづみ (立命館大学生存学研究センター客員研究員)・馬庭京子 (誕生日ありがとう運動京都友の会)・村田恵子 (京都頸髄損傷者連絡会)・矢吹文敏 (JCIL 日本自立生活センター) 山口研一郎 (現代医療を考える会・脳外科医)

賛同団体：2019年3月17日現在36団体

京都ダウン症児を育てる親の会 (トライアングル)

DNA 問題研究会

現代医療を考える会

グループ生殖医療と差別 (旧優生思想を問うネットワーク)

自立生活センターアークスペクトラム

JCIL 日本自立生活センター

誕生日ありがとう運動京都友の会

神経筋疾患ネットワーク

医療労働運動研究会

CIL もりおか

千葉市地域で生きる会

リメンバー7.26 神戸アクション

高槻人権平和市民交流会アスネット

関西女性障害者ネットワーク

脳性まひ者の生活と健康を考える会

わたしたちの内なる優生思想を考える会

NPO 法人 CIL だんない

東京インクルーシブ教育プロジェクト

「不幸な子どもの生まれない運動は終わったのか?兵庫集会」事務局

自立生活センターリングリング

にいがた自立生活センター

まいらいふ、NPO 法人ある

脳死臓器移植に反対する関西市民の会

「ここ・からサロン」

特定非営利活動法人てんぐるま

障害連 (障害者の生活保障を要求する連絡会議)

精神障害者権利主張センター 絆

岡崎自立生活センターびあはうす

いのちと優生を問うネット

障害者生活支援センター・てごーす

障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会女性部会

全国「精神病」者集団、青森県精神障害者連合会

NPO 法人青森ヒューマンライトリカバリー

臓器移植法を問い直す市民ネットワーク

SOSHIREN 女 (わたし) のからだから

賛同者：2019年3月17日現在196名